



あのときの常呂・写真館

VOL 71

(1979年)

昭和54年6月14日 岐阜神社社殿新築落成式典

▶岐阜神社の社殿落成式典のことを、昭和54年7月号の「広報ところ」は、次のように概要を伝えています。

＊岐阜神社の新築落成記念式典が、神社境内で行われました。岐阜神社の始まりは明治42年。昭和17年に現在の場所に新築移転。それから37年が経ち、いたみが激しくなったため今回の新築になりました。今回の新築では、社殿・鳥居・狛犬・灯ろうなど総工費700万円。式典の後、工事関係者への感謝状が贈られ、区長からは「明治30年に先人が部落に開拓の鋤をおろして以来、心の拠り所として多くの人々がこの社殿を中心に幾多の苦難を乗り越え郷土の発展に尽くした。この偉業を受け継ぐ私たちが現代にふさわしい社殿の完成に感謝」のあいさつがありました。



完成した岐阜神社の正面：鳥居・社殿



*左：社殿と狛犬

*下：左奥に社殿と狛犬、
中央右に灯ろう





*左上：落成式典





*上：昭和17年11月、岐阜神社上棟式の餅まき

*下：昭和17年建立、昭和54年新築前の岐阜神社



※次ページで、岐阜神社の変遷を『岐阜地区開基百年記念史 闘壱』から紹介します

1. 宗教関係

○岐阜神社

明治42（1909）年、打ち続く災害の中で、地区住民から、神様を祭祀すべきという動議がだされた。お寺については、それなりの信仰もあって、布教師にきてもらいお説教をお願いしたり、お経をと覚えてもらったりしていたが、神様については何もお祭りしていなかった。度重なる水害や冷害は、神様をないがしろにしたせいかも知れない。そんな思いがあったのかもしれない。



昭和17年改築された神社のもちまき

土盛りをして建築したという。鳥居も村有地からナラの木を切り出して建立され、まわりに桜の木などを植え、境内の美化に努めた。

祭祀者としては、神主がいなかったため、若い項山伏の修行をしたことがあるという藤吉伊作等がこの任にあたった。また境内に土俵場を作り、奉納相撲が盛んに行われた。

神社建立以前にも、4月3日に地神さんを祭っていたようだが、神社ができてからは、6月15～16日に行われるようになった。

以来多くの先人がこの社殿を中心に、敬神の念に燃えつつ、郷土を愛し、育んできたが、昭和17年、社殿の老朽化と、地区民の増加から、地区にふさわしい神社を、との声により、現在地に移転新築され、名称を「岐阜神社」として、地区内の五穀豊穰と、出征兵士の武運長久、さらに地区内住民の安全健康を祈願する場所とし、多くの参拝者を迎えた。

戦後一時信仰心が薄らいだが、世情が落ち着くにつれ、岐阜地区の氏神様として再びよみがえり、昭和45（1970）年6月に新しい社殿が建立された。

れない。さっそく高橋清治の土地（現集落センター中央付近の畑の中）に、この年の10月天照皇太神を奉祀することにした。しかし、明治45（1912）年の大水害で、あやふく浸水しそうになったため、その後同じ敷地内（秋沢氏所有地ともいう）のトワタリの坂の頂上付近にホコラを建て移転した。

ところがこれも、神社の裏が道路になったため、そのまま南西の方向に移転することとなり、



現在の神社